様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　７月　４日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2010 ～ 2012
課題番号：22720057
研究課題名（和文）　イスタンブル音楽院の設立にみるトルコの音楽変容

研究課題名（英文）　The Establishment of Istanbul Conservatory and Musical Change in Turkey

研究代表者
濱崎　友絵　（HAMAZAKI　TOMOE）
早稲田大学・オープン教育センター・助教
研究者番号：90535733

研究成果の概要（和文）：
本研究は、オスマン朝末期からトルコ共和国建国の体制転換期に設立されたイスタンブル音楽院（前身はダーリュル・エルハーン）を事例に、トルコにおける西欧化と音楽変容の実相を検討することを目的とした。具体的には、１）イスタンブル音楽院の設立経緯の解明、２）機関紙『ダーリュル・エルハーン・メジュムアス』の分析、３）イスタンブル音楽院における音楽活動の検討、を通して、同音楽院における西欧化の実態とトルコの伝統音楽をめぐる活動の諸相を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：
The aim of this study is to examine the waseterniation and musical change in the late Ottoman Empire and the early Republic of Turkey, focusing on the establishment of Istanbul Conservatory (Darülelhan). I examined the actual condition of musical change from three perspectives; 1) an examination of the process of the establishment of Istanbul Conservatory, 2) contents of magazine published by Darulelhan, 3) musical activities and research by Darulelhan and Istanbul Conservatory.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
Ｈ２２年度	1,000,000	300,000	1,300,000
Ｈ２３年度	900,000	270,000	1,170,000
Ｈ２４年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：芸術学、美学・芸術諸学
キーワード：音楽学、トルコ音楽史

１．研究開始当初の背景

オスマン朝末期からトルコ共和国建国期に先鋭化する「オスマン対西洋」の構図は、西洋音楽の積極的な導入とともに自国のオスマン古典音楽の徹底的な排除をうながし、トルコの音楽分野に急激なパラダイム・シフトをもたらした。近年、オスマン古典音楽演奏家やトルコ音楽研究者の間では、当該期における古典音楽教授禁止の衝撃を批判的に問い直す動きが高まりつつあるが、先行研究

は極めて数が限られ、その実態と背景の詳細は未解決のままとなっている。本研究の動機は、こうした状況に対し、音楽学的観点からトルコの音楽における具体的な西欧化と変容の実相を考察することにあった。

２．研究の目的

本研究は、オスマン帝国末期に設立されたイスタンブル音楽院を事例に、同音楽学校で目指された「音楽」のかたちと、後に伝統的オスマン古典音楽教育を排し西洋音楽教育へと転換をはかっていく背景と過程を検討することを第一義的な目的とした。

イスタンブル音楽院は、オスマン帝国末期に設立された「ダーリュル・エルハーン（音楽学校）」を前身にもち、1917 年に誕生したトルコ初の官立音楽学校である。西洋音楽とオスマン古典音楽の両部門を抱え、男女に等しく門戸を開き音楽教育を開始したが、1927 年に「イスタンブル・コンセルヴァトワル（「イスタンブル音楽院」）と西欧風の名称に改称されたことを契機に、オスマン古典音楽の教育を完全に廃止、西洋音楽教授機関としての役割を付されることになった。

本研究は、トルコ・アイデンティティを規定しようとした当代の音楽家や知識人が、音楽院という「場」でトルコの音楽といかに向き合おうとしたのか、また政治、文化の変革期におけるトルコ音楽の変容とは具体的に何であったのか、こうした問いに音楽学の立場から向き合うものである。同時に、両音楽学校の実態、楽譜集の編纂をめぐる問題、当時演奏されていた音楽作品の実際など、トルコ音楽史に対して、これまで未着手であった領域を整理、提示することを目指した。

３．研究の方法

上記の目的に対する論考を進めるために、研究対象とする年代（1917-1944）を大きく三つに区分した。すなわち、共和国成立以前のダーリュル・エルハーン(1917-1923)時代、共和国成立以降のダーリュル・エルハーンからイスタンブル音楽院への移行期（1923-1927）、イスタンブル音楽院時代（1927-1944）、の三つである。とくに調査対象とした時期は、ダーリュル・エルハーン時代および共和国成立以降のイスタンブル音楽院への移行期である。

その上で、大きく三つの観点からアプローチを試みた。

（１）音楽院の設立経緯の検討

ダーリュル・エルハーンおよびイスタンブル音楽院は、トルコ音楽史において必ず言及される組織でありながらも、具体的な設立経緯および背景、理念や体制などの詳細については不明な点が多く残されている。そこでまずトルコ語によって出版された当時の資料を中心に、当機関の骨格にかかわる情報を収集し、音楽院の変容過程を検証するための基盤となるデータを整理した。

（２）音楽雑誌の分析

ダーリュル・エルハーンは、1924 年から 1926 年にかけて機関誌『ダーリュル・エルハーン・メジュムアス（音楽学校雑誌）』を刊行している。トルコにおける音楽関連雑誌の多くは 1930 年代以降に発刊されていることから、同雑誌は機関紙という特質を持ちながらも、1920 年代中葉のトルコの音楽動向を伝える貴重な一次資料と位置づけることができる。そこで本研究では、全 7 巻からなる『ダーリュル・エルハーン・メジュムアス』の検討をおこなった。

（３）ダーリュル・エルハーンおよびイスタンブル音楽院の活動の検討

1927 年にダーリュル・エルハーンからイスタンブル音楽院に名称が変わり、教育内容も西洋音楽に特化したカリキュラムをもつ組織となったが、一方で、同機関は、トルコ民俗音楽およびオスマン古典音楽にかんする調査および楽譜出版をおこない、「トルコ音楽の五線譜化」に積極的にかかわった。そこでこうした活動の全体像を、トルコ音楽史のみならず当時のトルコの社会的動向と結び付けながら検討することを試みた。

４．研究成果

（１）ダーリュル・エルハーン設立の経緯

ダーリュル・エルハーン（音楽学校）は、字義的には「旋律の家」ないし「旋律学校」となる。なお、多くの文献で同音楽学校の設立年は 1917 年とされるが、実際は、その前身にあたるダーリュル・ベダーイ（芸術学校）を母体として誕生した組織と位置づけられる。以下、組織と名称の変遷を整理すると下記のようになる。

①ダーリュル・ベダーイ（1914－1916）
②ダーリュル・エルハーン（1917－1923）
③イスタンブル市在ダーリュル・エルハーン（1923－1927）
④イスタンブル音楽院（1927－1944）
⑤イスタンブル市立音楽院（1944－1955）

そもそもダーリュル・ベダーイは、演劇部門と音楽部門の二部門により構成されたが、その設立理念は、「芸術」としての演劇の確立と専門的知識を有する舞台芸術家の養成にあった。

ダーリュル・ベダーイの設立を、オスマン朝末期における近代教育改革の流れから理解することも可能であろうが、その設立背景

には、当時のトルコにおける演劇をとりまく状況が多少なりとも関係していたと推察される。20 世紀初頭、トルコの演劇は、アルメニア人やギリシア人（とくにカントやパントマイム分野）、トルコ人による大道演芸（オルタオユヌ）などにより支えられていたが、こうした「享楽的」演劇に対する「芸術的」演劇の確立がダーリュル・ベダーイの設立の伏線となっていたと考えられる。

同機関には、東洋音楽（オスマン古典音楽）と西洋音楽の二学科が設置されたが、とくに前者（東洋音楽）で求められたのは、「トルコ音楽の崩壊から守り、音楽の楽しみを一般に普及させること」にあった。このことからも、その実態はともかく、演劇分野と同様、音楽分野においてもダーリュル・ベダーイが「正しい芸術」の庇護者としての役割を付されていたとみなすことが可能である。

なお、西洋音楽科は第一次世界大戦の勃発により閉鎖されたが、東洋音楽科は戦況悪化により完全閉鎖される 1916 年まで存続し、演奏活動を続けた。

②ダーリュル・エルハーン（1917－1923）

ダーリュル・ベダーイが閉鎖された後、新しい音楽学校を開校するための要望書が教育省に提出され、1917 年 1 月 1 日に議会で承認された。ダーリュル・エルハーンの誕生である。その設立理念は、体系的な音楽教育を提供するとともに、オスマン古典音楽を演奏し普及させることにあった。4 年間の教育プログラムには、ネイ、タンブール、ウード、カーヌーン、サントゥールなどのオスマン古典音楽で用いられる楽器の教育がおこなわれると同時に、チェロやピアノ、音楽史、和声のような西洋音楽の講義も加えられていった。

ただし、ダーリュル・ベダーイの音楽部門とダーリュル・エルハーンの音楽科との大きな違いは、あくまでダーリュル・エルハーンの教育の比重が、東洋音楽（オスマン古典音楽）に向けられていたという点にある。

③イスタンブル市在ダーリュル・エルハーン（1923－1927）

このようなダーリュル・エルハーンの方向性が大きく転換する契機となったのが、1923 年のトルコ共和国成立であった。初代大統領ムスタファ・ケマルにより目指された「前近代的オスマンの遺産」の排除と西欧化への動きは、同機関へも如実に反映されることになった。同年、教育省からイスタンブル県庁の管轄となり、名称をダーリュル・エルハーンから「イスタンブル市在ダーリュル・エルハーン」へと改変した同機関は、「西洋音楽科」を設置し、カリキュラムに西洋音楽関連科目を加え、ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、声楽、合唱と教育内容の拡張を図っていった。さらに順次、専門教師も採用されるなど、制度面での西欧化が目に見える形で進んでいったことが各資料から裏付けられる。

こうした一連の動きは、ダーリュル・エルハーンの予算面からもうかがい知ることができる。1924 年、ダーリュル・エルハーンにおけるオスマン古典音楽科に配分された予算額は、予算総額の約六割であったのに対し、その翌年の 1925 年には五割を割りこみ、1926 年には、約三割半にまで減少する。それに対して西洋音楽科への予算額は全体の約六割を占めるまでになり、1926 年の時点で「トルコ音楽」と「西洋音楽」の重視度は完全に逆転することになった。

④イスタンブル音楽院（1927－1944）

1926 年、イスタンブル市在ダーリュル・エルハーンは、教育省長官ネジャーティ・ベイにより一旦閉鎖されるものの、翌年の 1927 年に「イスタンブル・コンセルヴァトワル（「イスタンブル音楽院」）と西欧風の名称に改称されたことを契機に、オスマン古典音楽の教育を完全に廃止し、西洋音楽教授機関として活動を開始することになる。オスマン古典音楽に関係する組織として残ったのは、アハメット・ウルソイ、ラウフ・イェクター・ベイ、アリー・ファトのただ三名から成る「トルコ音楽演奏分類委員会」のみであった。

トルコ初の公立音楽学校としてスタートし、当初はオスマン古典音楽教育を重視していたダーリュル・エルハーンであったが、1924 年から 1926 年というきわめて短い間に予算の面からもオスマン古典音楽と西洋音楽の比重に逆転が生じ、完全に西洋音楽教育機関として変貌を遂げていった。「オスマン＜西洋」の構図は、1923 年の共和国建国を契機に、数年の間で決定的な方向性をイスタンブル音楽院に与えることになったといえよう。

（２）機関紙『ダーリュル・エルハーン』の分析

ダーリュル・エルハーン（正確には、イスタンブル市在ダーリュル・エルハーン）が刊行した機関紙が『ダーリュル・エルハーン・メジュムアス（音楽学校雑誌）』である。1924 年 2 月に第 1 巻が刊行され、以降、1926 年まで不定期に計 7 巻が刊行された。各巻はおよそ 45 頁前後から成り、内容はおもに「西洋音楽」と「オスマン古典音楽」に関する紹介や論考が交互に配置されるに体裁となっている。同誌には、同音楽学校の教師であったムーサ・スレイヤ（当校初代校長）やラウフ・イェクター・ベイ、ハリル・ベディイ・ヨネトケンら当代を代表する音楽学者らが論説を掲載した。なお同雑誌は、文字改革以

前に出版された音楽雑誌であり、すべてアラビア文字表記によるオスマン語で記されていることから、その読解には想定以上の時間を要することになった。

同雑誌の特徴は、各巻の末尾に学生らによるコンサート開催に関する事項が記述されており、そこからダーリュル・エルハーンがオスマン古典音楽および西洋音楽の公開演奏会をしていた様子が読み取れることにある。とくに西欧化に関して特筆すべきは、第2巻（1924年）に記録されているダーリュル・エルハーン主催の公開演奏会である。「西洋音楽科」による演目内容は、古典派からロマン派を中心とするオーケストラ作品やピアノ協奏曲などから構成されており、演奏レベルはともかく、西洋音楽科設立からわずか一年足らずであることを考えれば驚くべき進展であったといえよう。

また第3巻から第5巻にかけて、音楽者ハリル・ベディイ・ヨネトケンとマハムート・ラーグプ（ガーズィミハール）が「トルコの新しい音楽」について論考を寄せていることも興味深い。「西洋」と「東洋（オスマン）」という単純な二項対立を乗り越えようとする主張から、将来目指すべき「トルコ音楽」のかたちを真剣に問おうとした当代の音楽学者の葛藤が読み取れる。この点については「トルコにおける『国民音楽』の成立」(2013)の第一章で言及した。

（３）ダーリュル・エルハーンおよびイスタンブル音楽院の活動の検討

ダーリュル・エルハーンおよびイスタンブル音楽院は、オスマン古典音楽および民謡譜の編纂・出版にかんしてもトルコ音楽史上、大きな貢献を果たした機関として位置づけられる。オスマン古典音楽に関しては、ダーリュル・エルハーンによる120曲、イスタンブル音楽院による60曲、合計120曲が五線譜化され出版された。なお、これら楽曲の詳細および五線譜化にともなう諸問題の考察については、今後の課題となる。

また、トルコ民謡収集作業および五線譜化については、当初、その方法は、各地方村落の教師や音楽教師らに「アンケート用紙」なるものを送付し、民謡譜の返送を請うものであったという。「ダーリュル・エルハーン」の名の下で、約二千枚のアンケート用紙が準備され、アナトリア各地の学校などへと送付され、そのうち八十五曲が『アナトリアの民謡』と題されたノート二冊に収録され、オスマン語の歌詞が付された五線譜の形で1926年に出版された。なお1926年から1929年にはイスタンブル音楽院により民謡収集事業が展開されることになるが、この点については「トルコにおける『国民音楽』の成立」（2013）の第三章にまとめている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計１件）
濱崎友絵「トルコ共和国の成立と『トルコ音楽』の形成」、早稲田大学イスラーム地域研究機構第33回定例研究会、2013年3月6日（水）、早稲田大学。

〔図書〕（計１件）
濱崎友絵　「トルコにおける『国民音楽』の成立」、早稲田大学出版部（早稲田大学モノグラフ83）、2013年3月。

６．研究組織
(1)研究代表者
濱崎 友絵（HAMAZAKI TOMOE）

研究者番号：90535733

(2)研究分担者
なし　　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
なし　　（　　）

研究者番号：